

1長府庭園 (ちょうふていえん)

長府毛利家5万石の家老西連長の屋敷跡で、31,000㎡の敷地は滝と池を中心に書院・茶室・あずまや・蔵が点在し、四季折々に孫文蓮・桜・ツツジ・もみじ・菖蒲などが楽しめます。また、蔵は市民ギャラリーとして年間利用されています。ゆったりとした時空を過ごせる回遊式日本庭園です。特に孫文蓮は必見の価値あり！

- 開園時間 9:00~17:00
●休園日 12月28日~1月4日
●入園料 一般 200円 (団体160円)
小中学生 100円 (団体80円)
TEL 083-246-4120

2日頼寺 (にちらいじ)

極楽寺と呼ばれていましたが、天正年間、毛利元就の四男元清(毛利秀元の父)が、元就の法号「日頼洞春」にちなみ「日頼寺」と改称し、彼の菩提寺としました。また、仲哀天皇が九州遠征時に急死した際、神功皇后が九州のご遺体を仮埋葬した塚(御殯歛地)があります。

3笑山寺 (しょうざんじ)

毛利秀元により、祖母乃美大方の菩提寺として建てられたお寺ですが、彼の没後、秀元の父元清の法号にちなみ「笑山寺」と改称されました。長府毛利家の菩提寺の一つです。

4功山寺 (こうざんじ)

鎌倉時代創建、唐様建築の美しさを保つ仏殿は、わが国最古の禪寺様式を残しており、国宝に指定されています。また数々の歴史の舞台となったところで、毛利元就に追われた大内義長が自刃したり、高杉晋作が伊藤俊輔(博文)らを率いて挙兵した所でもあります。初代秀元をはじめ9人の藩主達の墓が仏殿裏にあります。

5長府博物館・万骨塔 (ばんこつとう)

長府の篤志家桂弥一が、昭和8年に私財を投じて建てた尊攘堂を歴史博物館として利用。坂本龍馬が愛用していた飯碗と湯呑をはじめ、幕末・維新の資料を数多く保管・展示しています。隣接した万骨塔は、明治維新を中心とした国事に命を捧げた名も無き人々の霊を供養するため、弥一が建てたものです。塚には「一将功成りて万骨枯る」の碑と全国から寄せられた石が供えられています。

- 開館時間 9:30~17:00
●休館 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、祝日の翌日)・12月28日~1月4日
●入館料 大人200円、大学生100円(特別展は除く)
TEL 083-245-0555

城下町長府 散策MAP



6長府毛利邸 (ちょうふもうりてい)

明治36年(1903)、長府毛利家14代元敏によって建てられた邸宅。明治天皇のご宿泊所として使われたところです。重厚な母屋と白壁に囲まれた日本庭園の妙が風情を感じさせてくれます。セルフサービスの緑茶や母屋の各所に季節の花が生けてあり、散策時の休憩所として好評。新緑や紅葉等、季節の彩りが味わえます。

- 開場時間 9:00~17:00
●休場日 12月28日~1月4日
●母屋入場料 大人200円 小中学生100円
※団体20人以上2割引
TEL 083-245-8090

7菅家長屋門・古江小路 (かんげながやもん・ふるえしょうじ)

菅家は、侍医兼侍講職を務めた格式ある家柄です。この長屋門は、代々藩中医家随一のふさわしい構えを見せており、武家の屋敷構えとその趣を異にしています。また面した通りは古江小路と呼ばれ、城下町らしい雰囲気をもっています。

8長府藩侍屋敷長屋 (ちょうふはんじやくらや)

中央に出入口を配し、一見長屋風ですが、構造の重厚さ、特に仲間部屋格子窓の造り等は、上級藩士の住居の趣をよく残しています。

9忍宮神社 (いみのみやじんじや)

長門国二の宮で、仲哀天皇・神功皇后が西国平定の折に、ここに豊浦宮を建て、7年間滞在したといわれています。毎年8月7日から1週間行われる「数方庭」は、境内の鬼石の周りを十数メートルもある竹の籬を抱えて回る「天下の奇祭」として知られています。また、仲哀天皇に渡来人が蚕種を献上したという伝説から、蚕種渡来の地の碑が境内の一角にあります。

10乃木神社・横枕小路 (のぎじんじや・よこまくらしょうじ)

明治天皇に殉死した乃木希典を祀っています。境内には乃木将軍が育った家が復元され、ご夫婦の銅像も建てられています。神社の左の路地は横枕小路と呼ばれ、樹葉に覆われた土塀の空間は、そのままタイムトンネルといった味わいがあります。

11覚苑寺 (かくおんじ)

長府毛利藩三代目藩主綱元が建てたお寺で、毛利家の菩提寺の一つです。また付近一帯は、和同開珎の鑄銭所のあとで、出土品は長府博物館に展示されています。境内には、狩野芳崖、乃木希典の銅像や、和同焼の窯元もあります。紅葉の名所です。

坂本龍馬と長府の関係

慶応2(1866)年、坂本龍馬は下関より長府藩士三吉慎蔵を同道して上京し、京都薩摩屋敷で薩長同盟を実現させました。しかしその2日後、伏見の寺田屋で襲撃に遭い、慎蔵と共に寺田屋を脱出。後、妻としてお龍を伴った龍馬は下関に寄宿し、お龍の後事を慎蔵に託しました。龍馬の死後、慎蔵はお龍を土佐の坂本家に送りつけています。

緊急連絡先 長府観光会館 083-246-1120

発行 長府観光協会